

2024年10月21日

苫小牧市長  
岩倉 博文 様

苫小牧港の軍港化阻止実行委員会  
米軍戦闘機の訓練移転反対苫小牧実行委員会  
実行委員長 横山 傑

【公印省略】

## 「日米共同訓練」と「日米共同統合演習」の実施に当たり市民の安全と生活を守るための要請書

貴職が日頃苫小牧市民の安全と福祉の増進、地域経済の発展をめざして取り組んでいることに敬意を表します。

さて、10月21日(月)から11月1日(金)にかけて、「米軍再編に係る三沢飛行場から千歳基地への訓練移転」として、日米共同訓練が実施されることが9月26日(木)に防衛省より発表されました。また同日、統合幕僚監部から「令和6年度日米共同統合演習(実動演習)『Keep the Sword 25』」が並行して実施されることも発表されています。

両訓練を通し、「北海道西方空域」「三沢東方空域」に展開するために、米軍機と自衛隊機が本市上空を訓練期間にわたり多数回飛行することが予想されます。また、実動演習の一環として苫小牧港と釧路港を使用し、白老駐屯地、安平駐屯地への統合後方補給・衛生訓練(補給品輸送)を行うことが予定されています。

私たちはこれまでも、「非核平和都市条例」を掲げ恒久平和と核兵器のない平和の実現に向け努力することを謳う苫小牧市の港湾施設等が軍事利用されることは決して好ましいことではないことを繰り返し表明してきました。

たしかに港湾法の規定からは市として入港すること自体を拒否することは難しいのかもしれませんが、条例の規定が空洞化されていくことを防ぐためにも民間港が当たり前のように軍事利用されることに対しての懸念を、機会を捉えて表明することは大切なことではないでしょうか。また、日常的にも自衛隊の砲弾発射訓練に起因する騒音と窓ガラスなどの振動、高度を下げて飛行する自衛隊機の騒音の増大が、市民生活に影響を与えています。

定例市議会の中では、苫小牧市は「非核平和都市条例」を持っている、平和の実現を願い、また実現に向けて努力することは次の世代へ繋げていかなければならない、また、市民の安全・安心を第一義に考えていきたいと考えている」との市としての姿勢が表明されています。今回も含めこれまでも、訓練については関係機関への要請や騒音の測定などが行われ、市民にも市が把握した情報が適切に公開されてきました。

しかし、内閣が交代しても軍拡や改憲推進の動きはなくなることなく、ゴールなき軍拡競争に日本が巻き込まれていく危険性が高まりつつあることに私たちは強い危機感を持っています。戦争の惨禍を二度と繰り返さないためにも、今私たちには、国の政策に盲目的に追随するのではなく、批判的にそれを検証し繰り返し声を上げていく姿勢が求められているのではないのでしょうか。

以上の趣旨から、貴職に対し下記の項目を要請しますので、ご多用の中お手数をおかけしますが、速やかにご回答下さるようお願いいたします。

## 記

1. 自衛隊機及び米軍機の苫小牧上空の飛行予定を明らかにさせることを防衛施設局に求め、市街地上空の飛行及び低空飛行と深夜・早朝の飛行が行われていないか情報収集に努め、その内容をすみやかに苫小牧市民に公表すると共に、実施された事実を確認した場合は関係機関に対し抗議を行ってください。
2. 米軍との訓練に関連し事故等が発生した場合や騒音等の被害が発生した場合、直ちに市民に公表し、対策・対応を速やかに行ってください。
3. 「非核平和都市条例」を有する苫小牧市の東西の港は商業港であり、軍事利用は望ましいことではないということを、市長は市民を代表する立場として機会を捉え表明してください。
4. 岸壁の利用調整について自衛隊艦船を優先して行うことはないことを明示してください。
5. 自衛隊艦船が入港する場合は、安全の確保に可能な限り努めるよう関係機関に要請するとともに、関連する情報を可能な限り市民に適切な形で提供してください。